

第2号議案

県立高等学校の学科の再編について

県立高等学校の学科の再編について、次のとおり決定することを提案します。

令和3年7月9日

広島県教育委員会教育長 平川 理恵

1 提案の趣旨

令和4年度から、別紙のとおり県立高等学校の学科の再編を行う。

2 今後の手続

学科の再編に伴う広島県立高等学校学則の改正については、所要の時期に行う。

3 根拠規定

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育委員会の職務権限）

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

（略）

(5) 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。

県立高等学校の学科の再編について（案）

1 要旨

- 経済のグローバル化や情報技術の進歩などに伴い、あらゆるビジネスが情報を介して結びつくなど、経済社会を取り巻く環境が大きく変化するとともに、情報に関する技術が日進月歩で高度化してきており、必要とされる専門的な知識、技術なども変化・高度化してきている。
このため、実社会に近い学習を行う県立商業高等学校4校において、広島版「学びの変革」の取組の一環として、課題解決型学習（PBL）を先行実施してきたところであり、新たな時代のビジネスで求められる情報活用能力や課題発見・解決力等を有した人材の育成を目指し、それぞれ令和4年度から、既存の複数学科を発展的に統合し、商業の単一学科「情報ビジネス科」に学科改編する。

商業高等学校	令和3年度	令和4年度
尾道商業 広島商業 呉商業 福山商業	≪小学科制≫ 既存の複数学科	≪単一学科≫ 情報ビジネス科

- ※ 令和4年度以降の学科名については、4校同一とする。
- ※ 令和3年度入学者が卒業する令和5年度末をもって既存の複数学科を廃止する。

- なお、この学科改編は、地域や地元産業界の意見等を踏まえ、「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」に基づき実施するものである。

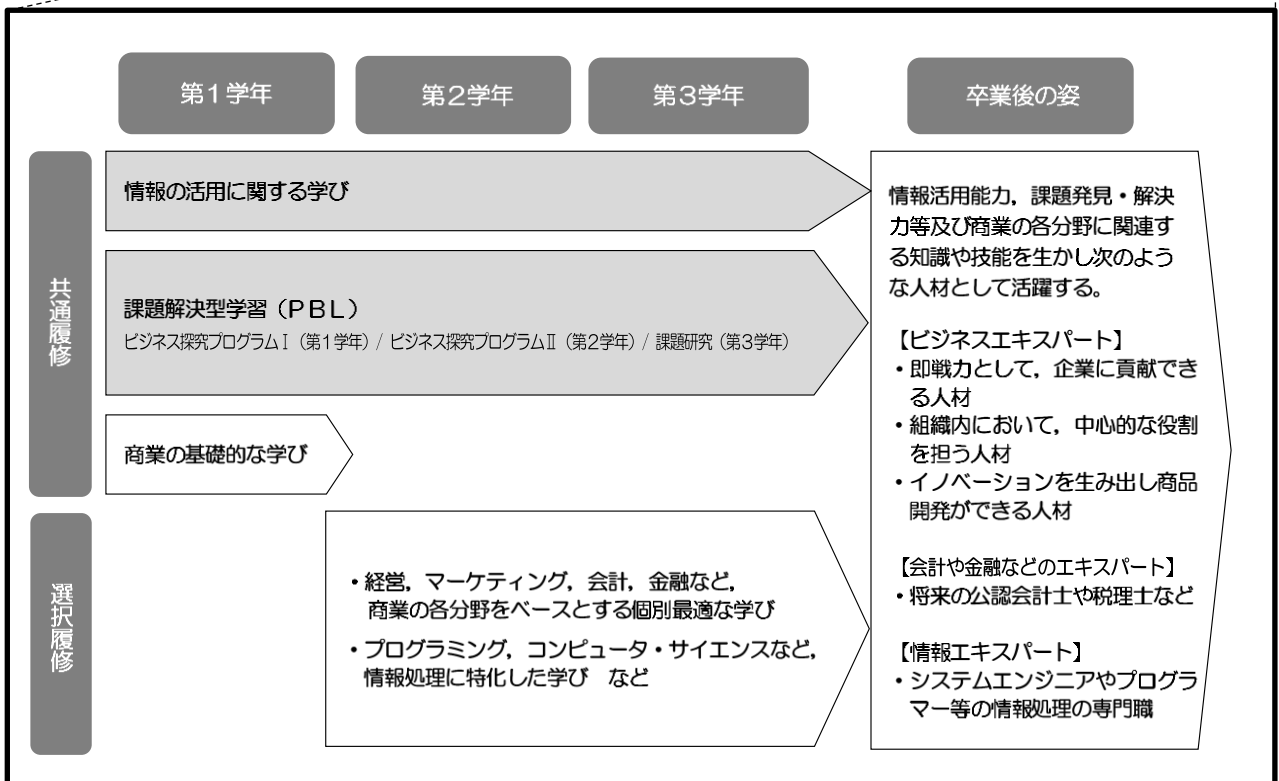
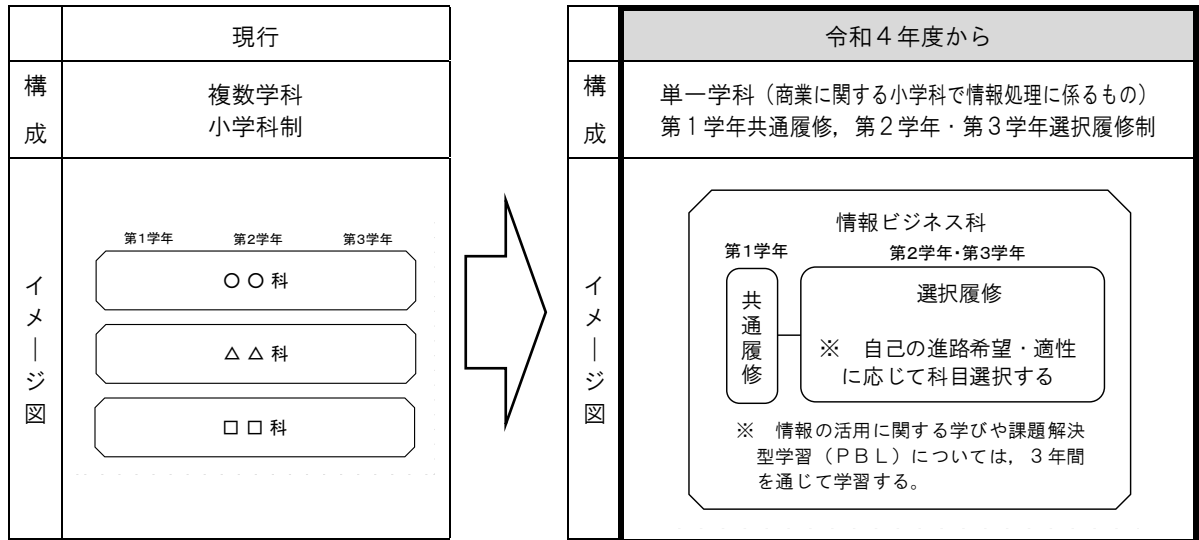
2 目指す人材育成

- 新たな時代のビジネスで求められる情報活用能力や課題発見・解決力等を有した次のような人材の育成を目指していく。
 - **ビジネスの担い手となるビジネスエキスパート（卒業後に就職，進学）**
 - ・ 課題解決型学習（PBL）や情報の活用に関する学習を3年間通じて学習することで、卒業後、即戦力として、社会情勢の変化や、どのような業種にも適応していける基本的スキル等を持ち合わせ、企業に貢献する人材。
 - ・ 進学して、将来、組織内において中心的な役割を担う人材やイノベーションを生み出し商品開発等ができる人材。
 - **ビジネスの発展を支える会計や金融などのエキスパート（卒業後に進学）**
 - ・ 会計や金融などの学習を深め、進学して、将来の公認会計士や税理士など。
 - **ビジネスの発展を支える情報エキスパート（卒業後に進学）**
 - ・ 情報処理に関するプログラミングやコンピュータ・サイエンスなどの学習を深め、進学して、システムエンジニア、プログラマーなど。

3 学科改編のポイント（手立て）

- 学科の構成
 - 商業の単一学科「情報ビジネス科」とし、第1学年は共通履修、第2学年から選択履修とする。
- 教育内容
 - 情報の活用に関する学びを、全生徒、全学年で行う。
 （【現行】3年間で2～4単位 → 【令和4年度から】6単位以上に増）
 特に、情報処理に関する学習を深めたい生徒について、最新のプログラミング言語の学習など専門性の高い学びを選択履修可能とする。
 - 課題解決型学習（PBL）を、3年間の中心的なカリキュラムとして位置付け、全学年で実施する。
 （【現行】第1学年・第2学年 → 【令和4年度から】全学年）
 特に、第1学年では、課題解決型学習の「ビジネス探究プログラムⅠ」を必修とし、自己の適性や進路を探究することで、第2学年以降の自身の望ましい選択履修につなげる。併せて、選択科目の充実を図る。

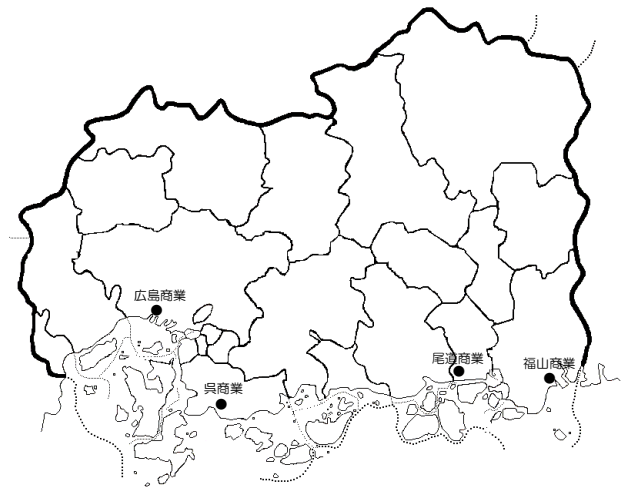
○ 新学科の構成イメージ



県立高等学校の学科の再編に係る資料

○ 設置学科，入学定員及び配置図 ※ 令和3年度現在

学校名	学科	入学定員
尾道商業	商業	80
	ビジネス会計	40
	情報管理	80
広島商業	商業	120
	国際経済	40
	会計	80
	情報システム	80
呉商業	商業	40
	情報処理	80
	会計	40
福山商業	流通経済	80
	情報ビジネス	80



○ 今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画

—取組の方向性—

- ・ 既存の学科について，生徒の実態や地域の産業構造の変化等を踏まえ，必要に応じて，学科改編を含めた教育内容の見直しを検討する。
- ・ 専門高校拠点校は，細分化された小学科について，基幹的な専門分野に集約することを検討します。

○ 課題解決型学習（PBL）

広島版「学びの変革」を推進する取組として，社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力の育成を図るため，県立商業高等学校4校の教員が協力・開発している商業教育の刷新を図る中心的なカリキュラム。令和2年度から学年進行で実施している。

- ・ 「ビジネス探究プログラムⅠ」※¹（第1学年）
- ・ 「ビジネス探究プログラムⅡ」※²（第2学年）
- ・ 課題研究（第3学年）予定

なお，第1学年で実施する「ビジネス探究プログラムⅠ」は，例えば，「人はなぜ生きるのか」「これからの世の中はどうか」などの「本質的な問い」を掲げ，生徒が，人としての在り方や生き方という広い視野から，自分を取り巻く環境や世の中の変化に目を向け，「生きるために必要なものは何か」について考え，「商業を学ぶ意義」や「商業を学ぶ喜び」が感じられるプログラムとなっている。

※1 科目「ビジネス基礎」「情報処理」で実施

※2 起業家精神の育成を図る学習プログラムを学校設定科目で実施